現代アメリカ英語における周辺的法助動詞 *Dare*

東　　真千子

【要　　旨】

周辺的法助動詞 *dare* の用法を、大規模な現代アメリカ英語コーパス（COCA）（1990－2010年，約４億2000万語）を第一次資料として観察した。用法別に見ると、本動詞用法は肯定平叙文において圧倒的に優勢である。今日稀であると言われる助動詞用法も３割ほど見られたが、その中には慣用表現「How dare＋主語＋原形不定詞～？」（「よくも～できるね」）の例を多く含んでおり、実質的にはそれほど多くない。混交用法は否定平叙文および否定命令文において頻度が高い。特に否定命令文においては９割以上を占め、「Don't you dare＋原形不定詞」（「～したら承知しないぞ」）型は慣用化した表現になっている。結論的には、本動詞用法が *dare* の用法の主流を占めてはいるが、否定平叙文、否定命令文においては混交用法が多用されており、広く容認されつつある語法であると言える。なお、*dare* の後に動名詞を取る例も数例見られた。不定詞構文との類推から生まれた新しい混交形式であろうが、英米の辞書・語法書等では未だ認知されていない語法である。

【キーワード】

周辺的法助動詞 *dare*　現代アメリカ英語　語法　コーパス　不定詞構文

I

周辺的法助動詞（'marginal modal auxiliary'）の *dare* には、本動詞と助動詞の両用法がある。本動詞としては、三人称単数現在形に－s が付き、to 不定詞を従える。また、現在分詞形や過去分詞形をとることもできる。助動詞としては、常に *dare* の形で原形不定詞を従える。

dare は元々助動詞であったが、16世紀になって本動詞用法が加わり、助動詞用法と本動詞用法の２つの用法が共存することになる。16世紀初頭からこの両用法が混交した用法も存在している。下の（a）－（c）に助動詞用法、本動詞用法、混交用法を連語辞典 BBI（2009）よりそれぞれ示す。

（a）I *dare* not protect.
（b）I don't *dare* to protect.
（c）I don't *dare* protect.

今日では、(b) の本動詞用法が一般的であり、(a) の助動詞用法は稀で、特にアメリカ英語では廃れつつあると言われている。その一方で (c) の混交用法は広く容認され、標準的な語法であるとする見方もある。

筆者は、先の論文（東 2006）において1990年代以降に出版された英米の小説における *dare* の用法を調査した。その結果、アメリカ英語においては、今日稀であると言われる助動詞用法が２割弱見られた。文の種類別に見ると、肯定平叙文においては本動詞用法が圧倒的に優勢であったが、否定平叙文では混交用法が最も優勢であった。また疑問文では、助動詞用法が優勢であり、否定命令文では混交用法が優勢であった。今日一般的とされる本動詞用法が *dare* の用法の主流ではあったが、混交用法が全体の４割近くを占めており、一般化しつつあることを明らかにした。そこで小論では、前回を遥かに上回る巨大なコーパスを利用して、前回の結論が妥当であったかを検証してみたい。調査に使用したアメリカ英語のコーパスは、Brigham Young University の Mark Davies 教授が編纂した Corpus of Contemporary American English（1990－2012）のうち、1990年から2010年の21年分である。Corpus of Contemporary American English（以下 COCA）は spoken［SPOK］, fiction［FIC］, popular magazines［MAG］, newspapers［NEWS］, academic［ACAD］の５つのジャンルから構成されており、各年でそれぞれのジャンル約400万語、合計でおよそ2,000万語から成る。従って1990年から2010年の21年分を扱った今回のコーパスは、約４億2,000万語から成る巨大なコーパスである。

II

まず、*dare* の歴史を簡単にふり返ってみよう。

dare は元来過去現在動詞であり、OE の当初より三人称単数現在形に－s/－th が付かず、原形不定詞を従える助動詞として用いられた。この助動詞は、肯定、否定、あるいは平叙文、疑問文の別なく広く用いられ続けたが、19世紀からは否定文、疑問文に限られる傾向にあるという（荒木・宇賀治1984, p. 425）。加えて、初期近代英語期に至り、*dare* は本動詞用法も発達させる。即ち、三人称単数形に－s が付いたり、to 付き不定詞を従えたり、名詞句目的語を従え始める。一方、助動詞用法と本動詞用法が混交した用法も16世紀初頭から見られる（Visser1969, §1359）。

最近の辞書の見解を見てみよう。イギリス系の Collins COBUILD (2006) は、*dare* は助動詞、本動詞として用いられるとし、その中で混交の例文も挙げている。次に LDCE（2009）は、助動詞用法の *dare* は、疑問文や否定文で用いられるとし、また本動詞として用いられる際は to 不定詞だけでなく、原形不定詞も従えるとし、混交形を認めている。OALD（2010）は、*dare* は否定文や疑問文において本動詞として自由に用いられるが、イギリス英語では特に現在形否定文において助動詞として用いられるとする。また、話し言葉では混交形がしばしば用いられるという。以上の３つの辞書は、否定命令文では常に混交形の例文を挙げている。一方、RHD（1983）、AHD（1992）、WNWD（2007）、MWCD（2009）などのアメリカ系の辞書には混交用法に関する言及はない。

文法書・語法書の見解はどうであろうか。Quirk.et.al（1985, §3. 42）, Longman Grammar（1999, §3. 8. 2. 3）, Cambridge Grammar（2002, §2. 5. 5）は、助動詞用法の *dare* は今日稀であり、特にアメリカ英語ではかなり稀であるという。また、これら３つの文法書に加え、Peters（2004）等の語法書も、助動詞用法の *dare* は稀で、使われる場合は否定文や疑問文に限定されるという。混交用法については、Quirk.et.al（1985, §3. 42）は広く容認されているとし、Greenbaum & Whitcut（1988）はアメリカ英語において好まれるとする。また、Swan（1995[2]）は時

折見られるとし、MWDEU（1994）やSwan（2005[3]）は特に注記なしに例示している。イギリス系のCOBUILD Usage（2006）は‘did not dare’の後に時折toなし不定詞が来るとし、原型不定詞を取る混交用法を容認している。一方、連語辞典BBI（2009）は、純粋主義者の中には混交形を誤用と考える者もいるとしている。わが国の語法書では、荒木・安井（1992）が混交用法は今日一般的になっているとし、安藤・山田（1995）も広く容認された用法であるとする。小西（2006）も、本動詞用法で後に続く不定詞のtoは省略できるとし、混交形を認めている。20世紀後半の英米語における *dare* の用法を調査したTaeymans（2004）も、アメリカ英語では混交用法が一般的になりつつあること、また助動詞用法が稀であることを実証している。以上のことを念頭において、*dare* の用例を見てみよう。

III

およそ４億2,000万語から成る現代アメリカ英語のコーパス（COCA）には膨大な数の *dare* が見られる。そのうち小論で考察の対象とする、不定詞と共起する約6,399例を助動詞用法、本動詞用法、混交用法の３つに分けて示すと、表１のようになる。これらの数字からは、‘Don't you dare！’,‘You dare！’（「とんでもない、（そんなこと）しないでくれ」）という慣用表現や、‘Who dared？’など、含意不定詞の例（不定詞と共起していないため助動詞か本動詞か判別できないような例）は除外している。その他、‘I dare say / I daresay’（「たぶん、おそらく」），‘dare I say（it）’,‘dare we say（it）’（「あえて言わせてもらうと」）といった慣用表現も常に助動詞としてしか用いられないので、統計からは除外している。

表１

	助動詞用法	本動詞用法	混交用法	計
1990－2010	1,896（30%）	2,621（41%）	1,882（29%）	6,399（100%）

表１は文の種類を無視して、単に用法で分類したものである。それによると、全6,399例中、本動詞用法が2,621例（41%）と一番多く、次に助動詞用法が1,896例（30%）、混交用法が1,882例（29%）、とほぼ同じ頻度で続いている。辞書・語法書で言われているように本動詞用法がやや優勢で全体の約４割を占めている。助動詞用法は３割を占め、文法書・語法書で言われているほど稀でないように見える。一方、混交用法も３割近くを占め、助動詞用法とほぼ同じ頻度である。Quirk.et.al（1985, §3.42）やわが国の語法書が指摘するように、一般化しつつあると言えるのかもしれない。なおこの他に *dare* の後に動名詞を取る例が７例見られたが、今回は統計には入れず、最後に「付記」として扱うことにする。

次に *dare(d) / durst* の用例を、文の種類別に平叙文、疑問文、命令文に分け、さらにそれぞれを肯定文、否定文に分けて次の表２のように示す。なお、ここで言う否定文はhardly, barelyなど否定の文脈中に起こる用例も含むものとする。

表２

	助動詞用法	本動詞用法	混交用法	計
平叙文	1, 185（23%）	2, 456（48%）	1, 494（29%）	5, 135
肯定文	406	1, 671	215	2, 292
否定文	779	785	1, 279	2, 843
疑問文	711（71%）	121（12%）	157（16%）	989
肯定文	709	119	155	983
否定文	2	2	2	6
命令文	―	44（16%）	231（84%）	275
肯定文	―	37	2	39
否定文	―	7	229	236
計	1, 896（30%）	2, 621（41%）	1, 882（29%）	6, 399（100%）

まず、文の種類別に見てみると、平叙文の場合、全5, 135例中、助動詞用法は1, 185例（23%）、本動詞用法は2, 456例（48%）、混交用法は1, 494例（29%）と、本動詞用法が最も優勢である。その平叙文を肯定文と否定文に分けてみると、肯定文では、全2, 292例中助動詞用法が406例（18%）、本動詞用法が1, 671例（73%）、混交用法が215例（９%）といった具合に、本動詞用法が圧倒的に優勢であり、助動詞用法と混交用法は１～２割程度といったところである。以下に肯定平叙文における助動詞用法、本動詞用法、混交用法の例をそれぞれ１例ずつ挙げる。

(1) That they *dared* enter the bathroom, a place prohibited for them, is a testament to the degree of their fright.（FIC LiteraryRev, 1994）
(2) And yet all this while I am resenting that another man *dares* to sit at your table, in your place.（FIC MassachRev, 2004）
(3) …to understand I was able to make a living doing that, so they could *dare* follow their own dreams.（MAG VegTimes, 2008）

一方、否定平叙文では、全2, 843例中、助動詞用法が779例（27%）、本動詞用法が785例（28%）、混交用法が1, 279例（45%）で、混交用法が最も多く、本動詞用法と助動詞用法は拮抗している。以下にそれぞれの用法を１例ずつ挙げる。

(4) If it's a necessity that is because we *dare* not have a failed state in Afghanistan that becomes a camp for al Qaeda.（SPOK ABC_ThisWeek, 2009）
(5) She did not *dare* to breathe a word about it to anyone.（FIC ContempFic, 1994）
(6) His hands were numb with cold, but he didn't *dare* wear mittens, because he needed his fingers to hold on.（MAG ChildLife, 1998）

このように、肯定平叙文では本動詞用法が圧倒的に優勢であり、否定平叙文では混交用法が最も頻度が高く、５割近くを占めている。

次に疑問文では、全989例中983例が肯定文に起こる。そのうち、助動詞用法は709例（72%）、本動詞用法は119例（12%）、混交用法は155例（16%）と、助動詞用法が７割強を占め、圧倒的

に多い。本動詞用法や混交用法の頻度はそれほど高くない。ただし、助動詞用法の肯定疑問文709例中、561例（約79％）は(7)に挙げる慣用表現「How dare＋主語＋原形不定詞～？」(「よくも～できるね」）である。肯定疑問文における助動詞用法は実質上はそれほど多いとは言えないのかもしれない。

(7) How *dare* you take such a stupid risk？（FIC KenyonRev，1992）

以下に肯定疑問文における助動詞用法、本動詞用法、混交用法の例をそれぞれ１例ずつ挙げる。

(8) *Dare* she hope for a third？（NEWS NewYorkTimes，1997）
(9) Do you *dare* to accuse me of so grave a sin？（FIC FantasySciFi，2002）
(10) Should he ever be available to talk to, would she *dare* ask？（FIC Bk:Parting，2007）

否定疑問文はそもそも用例自体が少ない。各用法それぞれ２例しかみられなかった。以下に１例ずつ挙げる。

(11) “Stop, we *dare* not go there？”（ACAD CrossCurrents，2001）
(12) Why should they not *dare* to do the same？（ACAD ForeignAffairs，2008）
(13) Do we *dare* not take the chance？（ACAD Bioscience，2003）

最後に命令文を見てみよう。助動詞用法の *dare* は命令文には起こりえないので、ここでは本動詞用法と混交用法のみを取り上げる。全275例中本動詞用法が44例（16％)、混交用法が231例（84％)、となっている。混交用法が圧倒的に多い印象を与える。しかし実情は異なる。命令文を肯定文と否定文に分けてみると、肯定文では、全39例中、本動詞用法が37例（95％)、混交用法が２例（５％）といった具合に、本動詞用法が圧倒的に優勢である。混交用法はかなり稀である。以下に肯定命令文における本動詞用法、混交用法の例をそれぞれ１例ずつ挙げる。

(14) *Dare* to say what you want.（MAG Cosmopolitan，1999）
(15) Let him *dare* come out.（FIC BkJuv: Arkadians，1995）

一方、否定命令文では、全236例中、本動詞用法が７例（３％)、混交用法が229例（97％）で、混交用法が圧倒的に優勢である。本動詞用法はかなり稀である。否定命令文では、辞書・語法書の記述通り、混交用法が中心的な用法であり、「Don't you dare＋原形不定詞」(「～したら承知しないぞ」）は慣用化していると言える。以下にそれぞれの用法を１例ずつ挙げる。

(16) Do not *dare* to touch that alligator.（FIC BkJuv:Tall, Dark, Cajun，2003）
(17) “Don't you *dare* move,” she ordered.（FIC Bk:TwiceUponTime，2009）

以上は文の種類別に見た *dare* の用法である。一方、用法の点からも見てみると、本動詞用法は、肯定平叙文に圧倒的に多くみられ、助動詞用法は、肯定疑問文の慣用表現「How dare＋主語＋原形不定詞～？」(「よくも～できるね」)を別にすれば、否定平叙文に比較的多く見られる。混交用法は、否定平叙文において優勢であり、否定命令文においては圧倒的に優勢である。

最後に、比較的最近、それもアメリカ英語で広く容認されるようになった混交形について少し詳しく見てみよう。以下に挙げる(18)は三人称単数現在形の本動詞 *dares* が原形不定詞を従える例、(19)は本動詞の過去分詞 *dared* の後に原形不定詞を従える例、(20)は助動詞 *would* と共起しながら、*dare* が原形不定詞を従える例、(21)は不定詞‘to dare’の後に原形不定詞を従える例、(22)は分詞形 *daring* の後に原形不定詞を従える例である。(23)は疑問詞と共起する *dare* が to 不定詞を従える例である。(24)は命令文で動詞 *dare* の後に原形不定詞を従える例である。

(18) No one *dares* neglect or evade the traditional ceremony. (ACAD Ethnology, 2001)
(19) If she'd known, she'd never have *dared* ask. (FIC Ploughshares, 1999)
(20) The subway cars were covered with graffiti and you wouldn't *dare* step outside without mace. (MAG Entertainment, 2007)
(21) It's a very inhibiting and very scary project because these characters have been loved for so many years, and I'm going to *dare* show them in a different light, (NEWS USAToday, 2000)
(22) Cautiously I stepped over his legs, wanting to tell him good bye, but *daring* not wake him. (FIC Bk:HartBrand, 2008)
(23) How *dare* you to let this happen ? (SPOK Ind_Geraldo, 1992)
(24) "And never return! Never, never *dare* return." (FIC AntiochRev, 1993)

混交用法の形式で最も多いのは、(20) のように、*dare* が助動詞 *do/will/shall* 等と共起しながら、原形不定詞を従える例である。全1,882例中1,491例（79.2%）がそれにあたる。その次に多いのは（19）のように本動詞の過去分詞形 *dared* の後に原形不定詞を従える例で、202例（10.7%）、次は（18）のように三人称単数現在形の本動詞 *dares* が原形不定詞を従える例で、172例（9.1%）。そして（21）のような不定詞‘to dare’の後に動詞の原形を従える例が12例（0.6%）、(22) のような分詞形 *daring* の後に原形不定詞を従える例が２例（0.1%）。次に (24) のように動詞 *dare* の後に原形不定詞を従える例が２例（0.1%）、最後に（23）のような疑問詞と共起する *dare* が to 不定詞を従える例が１例（0.05%）、といった具合である。このように、混交形式もいろいろであることがわかった。

付記――今回の調査では統計には入れていないが、*dare* の後に動名詞を従えるという珍しい用例が７例も見られた。用法的には本動詞用法である。以下にすべて挙げる。

(25) We're a lot closer to it than we were and closer than I might have *dared being* as recently as the'60s, for instance. (SPOK PBS Newshour, 1991)
(26) "*Dare touching* his sky blue, white jersey and he will kill you," he concluded emphatically. (ACAD LatAmPopScult, 1995)
(27) The police should have acted, and whoever *dared describing* in this way Mr. Rabin should have been long ago in jail. (SPOK ABC Nightline, 1995)
(28) We were both very timid. And I didn't *dare asking* him a question, and he didn't dare open his mouth. So for a half-hour we were silent. (SPOK Ind NewsForum, 1999)
(29) Authors of almanacs, especially, were accustomed to neglecting the authenticity of the writings they published, and *dared copying* texts as well as iconography under their own

names or pseudonyms.（ACAD AmerStudies，2002）

(30) Kyle had yet to *dare articulating* the unsuspected step three.（FIC Analog，2003）

(31) And then I chose bush pilots, a female pilot that fly go to places that I, as a pilot, would not *dare going* and *landing*.（SPOK Fox Susteren，2008）

dare が動名詞を従える例が起こるジャンルを調べてみると、７例中４例はSPOKである。もう１例もACADで引用されている会話文に起こっており、口語体に多いことがわかる。不定詞構文との類推から生まれた新しい混交形式である。どの辞書・語法書・文法書も認めていないことから、現時点では誤用とみなすべきものであろう。今後定着していくかどうか、興味深い用法ではある。

IV

以上、不定詞と共起する *dare* の用法を、大規模な現代アメリカ英語コーパス（COCA）に基づいて観察してきた。用法別に見ると、本動詞用法は肯定平叙文において圧倒的に優勢である。そして今日稀であると言われる助動詞用法も３割ほど見られたが、その中には慣用表現「How dare＋主語＋原形不定詞～？」（「よくも～できるね」）の例を多く含んでおり、実質的にはそれほど多くない。混交用法は否定平叙文および否定命令文において極めて優勢である。特に否定命令文では９割以上を占め、とりわけ「Don't you dare＋原形不定詞」（「～したら承知しないぞ」）型は慣用化した表現になっている。

前回の調査同様、今日標準的とされる本動詞用法が *dare* の用法の主流を占めていることは確認できた。それに加え、否定平叙文、否定命令文において混交用法が多用されている点も再確認できた。混交用法は、全体の３割近くを占めており、広く容認されつつある語法であると言える。

今回の調査では *dare* の後に不定詞ではなく動名詞を取る例も数例見られた。不定詞構文との類推によるものと考えられるが、今後の動向が注目されるところではある。

データベース

Davies, Mark. 2010－. *The Corpus of Contemporary American English*, 1990－2010. Available online at http://corpus_byu. edu/coca/.

参考文献（小論で言及したもののみ）

AHD = *The American Heritage Dictionary of the English Language*. 3rd ed. Boston: Houghton Mifflin, 1992.

BBI = *The BBI Combinatory Dictionary of English*. Comp. by Morton Benson, Evelyn Benson and Robert Ilson. 3rd ed. Amsterdam: John Benjamins, 2009.

Breenbaum, S. and J. Whitcut. *Longman Guide to English Usage.* Harlow, Essex: Longman, 1988.

Cambridge Grammar = R. Huddleston and G. K. Pullum, *The Cambridge Grammar of the English Language*. Cambridge: Cambridge University Press, 2002.

Collins COBUILD = *Collins COBUILD Advanced Learner's English Dictionary*. 5th ed. Glasgow: HarperCollins, 2006.

Cobuild Usage= *Collins COBUILD English Usage*. 2nd ed. Glasgow: HarperCollins, 2006.

LDCE = *Longman Dictionary of Contemporary English*. 5th ed. Harlow: Longman, 2009.

Longman Grammar = Douglas Biber, et al., *Longman Grammar of Spoken and Written English*. Harlow, Essex: Longman, 1999.

MWCD = *Merriam-Webster's Collegiate Dictionary*. Springfield, MA.: Merriam-Webster, 2009.

MWDEU = *Merriam-Webster's Dictionary of English Usage*. Springfield, MA.: Merriam-Webster, 1994.

OALD = *Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English*. 8th ed. Oxford: Oxford University Press, 2010.

Peters, Pam, *The Cambridge Guide to English Usage*. Cambridge: Cambridge University Press, 2004.

Quirk, Randolph, S. Greenbaum, G. Leech and J. Svartvik, *A Grammar of Contemporary English*. London: Longman, 1972.

RHD=*The Random House dictionary of the English language*. Unabridged ed. New York: Random House, 1983.

Swan, Michael, *Practical English Usage*. Oxford: Oxford University Press, 1995[2], 2003[3].

Taeymans, Martine, "*DARE* and *NEED* in British and American present-day English：1960s－1990s", in *New Perspective on English Historical Linguistics: Selected Papers from 12 ICEHL, Glasgow, 21－26August 2002*, Vol. 1, ed. Christian Kay, et al. (Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins, 2004), pp. 215－28.

Visser, F. Th. 1969. *An Historical Syntax of the English Language*. Ⅲ－Ⅰ. Leiden: E. J. Brill.

WNWD = *Webster's New World Dictionary of American English*. 4th ed. Cleveland, OH: Wiley, 2007.

荒木一雄・宇賀治正朋『英語史 IIIA』（英語学大系、10）大修館書店, 1984.

荒木一雄・安井稔編『現代英文法辞典』三省堂, 1992.

安藤貞雄・山田政美編『現代英米語用法事典』研究社, 1995.

小西友七編『現代英語語法辞典』三省堂, 2006.

東　真千子「現代英米語における *Dare*」田島松二編『ことばの楽しみ－東西の文化を越えて』南雲堂, 2006, pp. 215－27.